

ACM SIGUCCS へのお誘い

柏崎礼生^{1,a)} 山之上卓^{2,b)} 梶田秀夫^{3,c)} 三島和宏^{4,d)}

概要: ACM SIGUCCS は、発見と学習を促進するために高等教育機関が最新の技術を活用するための、専門家のための交流の場である。情報処理学会インターネットと運用技術研究会や、その前身の一つである分散システム/インターネット運用技術研究会の参加者たちは 2000 年代から ACM SIGUCCS に参加し始め、交流を深めてきた。本稿は、ACM SIGUCCS についての概略や、ACM SIGUCCS Tokyo Chapter について、また 2021 年 3 月から開催された年次大会を紹介し、大学関係者のみならず「キャンパス」という独特な空間における計算機サービスについて議論する場である ACM SIGUCCS への参加を誘うものである。

キーワード: ACM SIGUCCS, 高等教育機関, 専門家集団

Invitation to ACM SIGUCCS

Abstract: ACM SIGUCCS is an association to foster the professional development of those involved in the support, delivery, management, and leadership of information technology services in higher education. Participants of the Information Processing Society of Japan (IPSJ) Special Interest Group (SIG-) of Internet and Operation Technology (IOT) and its predecessors, the SIG Distributed Systems Management and Internet Operation Technology (DSM), started participating in SIGUCCS in the 2000s and have been interacting with each other. This paper provides an overview of ACM SIGUCCS, the ACM SIGUCCS Tokyo Chapter, and the annual conference held in March 2021. This is an invitation to participate in SIGUCCS, which is a forum to discuss computer services in the unique space of “campus”, not only for university people.

Keywords: ACM SIGUCCS, higher education, professional groups

1. ACM SIGUCCS とは

Association for Computing Machinery (ACM) は計算機科学の教育者、研究者、および専門家を集め、対話を促し、資源を共有し、この分野の課題に取り組むことを目的とした、アメリカ合衆国に本部を持つ世界最大の計算機科学の学会の一つである*1。ACM SIGUCCS は、その分科会 (Special Interest Group: SIG) の一つであり、ヘルプデスクから CIO まで、高等教育機関が発見と学習を促進するために最新の技術を活用するための専門家のための交流の場であ

る*2。その設立は 1963 年と古く、当初は SIGUCC (Special Interest Group for University Computing Centers) として活動を開始した。その後、大小の高等教育機関におけるコンピュータの利用が拡大していることを反映し、1981 年に名称を SIGUCCS (University and College Computing Services) に変更した*3。

情報処理学会で、特にインターネットと運用技術 (IOT) 研究会関連で SIGUCCS への言及がある文献として、会誌「情報処理」の 2016 年 3 月号に掲載された山之上卓らによる”ACM SIGUCCS 2015 参加報告 -Make Your Sun Shine-”があり*4、それよりも以前に遡ると、IOT 研究会の前身である分散システム/インターネット運用技術 (DSM) 研究会

¹ 国立情報学研究所

² 福山大学

³ 京都工芸繊維大学

⁴ 東京農工大学

a) reo_kashiwazaki@nii.ac.jp

b) yamanoue@fuip.fukuyama-u.ac.jp

c) h-masuda@kit.ac.jp

d) three@cc.tuat.ac.jp

*1 Association for Computing Machinery <https://www.acm.org>

*2 ACM SIGUCCS <https://siguccs.org>

*3 SIGUCCS History - ACM SIGUCCS <https://siguccs.org/wp/siguccs-history/>

*4 山之上卓, 坂下幸徳, 藤村直美, 笠原義晃: ACM SIGUCCS 2015 参加報告 -Make Your Sun Shine-, 情報処理, Vol.57, No.3, pp.296-297 (2016)

時代の、同じく山之上卓による”ACM SIGUCCS Fall 2004 Conference 参加報告”に遡る*5。一方、SIGUCCSでIOT研究会への言及がある発表として、同じく山之上卓らによる”An introduction to the special interest group on internet and operation technology (SIG-IOT) of information processing society of Japan”(2012)が挙げられる [1]。山之上卓は2004年から、また藤村直美は2006年にSIGUCCSへの継続的な参加を始めており、その功績を称えられ、2人はSIGUCCSに貢献した個人を表彰するために設立された功労賞であるSIGUCCS Hall of Fame Awardを2016年に受賞している*6(図1)。

SIGUCCS Hall of Fame Award

SIGUCCS activities are supported entirely by the volunteer efforts of our members. Over the years many of these individuals have contributed generously of their time, talents and energies to make SIGUCCS the vital and successful organization that it is.

The ACM SIGUCCS Hall of Fame was established to recognize individuals whose specific contributions have had a positive impact on the organization and therefore on the professional careers of the members and their institutions. The names and short biographies of past recipients are listed on this online [Hall of Fame](#). Recipients also receive a physical token of the award.



図1 SIGUCCS Hall of Fame Awardのページに未だに掲載され続ける山之上先生

1.1 ACM SIGUCCS Tokyo Chapter とは

一方、ACMにはChapter、日本語でいうところの支部があり、SIGの単位で作成される、地理的に近傍にいる専門家のためのProfessional Chapterのほか、学生のためのStudent Chapterが用意されている*7。必要事項を記載すれば誰でもChapterの申請をすることができ、Chapterが承認されるとACMから、ウェブサイトのホスティング、会員用ツール、メーリングリストのホスティング、リクルートツール、ACMのメールアドレス、ACM出版物の購読、ACM distinguished speaker programへのアクセスなど、多くの特典を受けることができる。一方、毎年一度のレポートを提出しないと運用実態がないとみなされて、Chapterが取り潰される可能性がある。

2012年の年次大会(後述)で、後にACM SIGUCCSのChairとなるLisa Brownがニューヨーク州の大学間での情報センター間交流がSIGUCCSのChapterへと展開した経緯について発表した [2], [3]。この発表を聞いた当時、IOT研究会の主査であった山之上卓が2013年3月に東大寺総合文化センターで開催されたIOT20の運営委員会で

*5 山之上卓: ACM SIGUCCS Fall 2004 Conference 参加報告, 情報処理学会研究報告インターネットと運用技術 (IOT), Vol.2005, No. 31(2004-DSM-036), pp.67-72 (2005)

*6 Hall of Fame Award Inductees - ACM SIGUCCS https://siguccs.hosting.acm.org/wp/?page_id=468

*7 Chapters <https://www.acm.org/chapters>

「ACM SIGUCCS Japan Local Chapter 設立の検討」という議題を提出した。11月にはIOT研究会運営委員全員(のうち参加を望まないものを除く)をACM SIGUCCS Japan ChapterのmemberとしてChapterの申請を行った。当時のBoard memberは、Chairが山之上卓、Vice-Chairが梶田秀夫、Treasurerが柏崎礼生、Fellowとして藤村直美という体制で申請を行っている。

しかし12月にはこの申請が却下された。というのも、この申請の数年前に、Chapterの名前として国名を冠するものは認められないと規約が変更されたためであった*8。その後、議論を重ねた結果、ACM SIGUCCS Tokyo Chapterとして申請することを決め、この申請は2014年7月にACMからの承認を得た。当初、連絡先住所が山之上卓が所属していた鹿児島大学に設定されていたが、Tokyo Chapterという名前と実態が異なることがIOT研究会内部で指摘され、当時IOT研究会の幹事であった坂下秀の所属組織である株式会社アクタソフトウェアの住所を連絡先住所とした経緯がある。

2. ACM SIGUCCS annual conference

ACM SIGUCCS Annual Conference (以下SIGUCCS Conferenceと略する)は年に1度開催されるACM SIGUCCSの年次大会である*9。SIGUCCSはACMによる計算機科学の国際会議の分科会でありながら、他の国際会議では珍しいスタイルの編集、発表プロセスが取られる。SIGUCCS Conferenceでは、口頭発表、ポスターセッション、ライトニングトークなどの募集が行われる。他の国際会議の口頭発表は、20~30分程度の時間で発表から質疑応答まで行われ、これが複数含まれて1つのセッションとなることが多い。SIGUCCSの口頭発表では、1セッションにつき1発表のみが割り当てられ(セッションチェアもそれぞれのセッションに割り当てられる)、しかも時間も60~90分と非常に長い時間が設定される。なかなかハードなセッションとはなるが、しっかりと内容を発表でき、さらには深い議論も可能になっている。SIGUCCS Conferenceは、編集スタイルも特徴的であり、投稿締切の段階ではいずれの発表に対してもアブストラクトより長めのプレゼンテーションプロポーザルを提出する。その後、採録が決定された論文は本文の提出を行うこととなる。提出されたプロシーディングは2回程度のPCによる推敲が行われる。このプロセスでは英語の文法的なチェックは当然のこと、内容について不足する点などを補うよう細かな指示があるなど、発表者を含めてConferenceをより良いものへ導こうとする努力が強く感じられる。

*8 ACM SIGMOD 日本支部 (ACM SIGMOD Japan) が存在するが、これはその規約変更の前にChapterとして認められたものと思われる。

*9 Annual Conference <https://siguccs.org/wp/attend/annual-conference/>



図 2 SIGUCCS Conference 2019 (ニューオーリンズ) で昼食を楽しむ著者ら

SIGUCCS Conference 2020 は 2020 年 11 月 8 日から 11 日の日程でサンディエゴにて開催される予定だったが、COVID-19 の状況を鑑み中止となった*10。そのかわり例年 11 月に開催される SIGUCCS Conference を 2021 年は 3 月から 4 月にかけて、オンラインで開催することとなった。前節で述べた通り、SIGUCCS が議論や対話を重視する傾向がここにも現れており、開催期間は 7 週間に渡り、1 日あたり 1 セッションしか開催されず、1 週間でせいぜい 2 セッション、参加者が無理のない時間に (参加する地域の時間帯にかかわらず) 参加できるようにプログラムが配置されている。あくまで 1 例ではあるが、筆者らが参加したとある国際学会では、主催者国の標準時に合わせて、オンライン開催の時と変わらず数セッションが平行で 1 日 10 以上のセッションが実施され、録画されたムービーを再生して議論の時間も確保せずに開催された。発表したという実績のみを残そうとするこのような学会が世に支配的であると述べるつもりはないが、ACM SIGUCCS の精神性を垣間見る側面であると言えるだろう。

本節では SIGUCCS Conference 2021 で筆者らが注目したセッションについて紹介していくこととする。

2.1 Lessons Learned セッション

2021 年 3 月 18 日 16:00(EDT)、日本時間では 3 月 19 日朝 5 時から、Lessons Learned セッションが始まった。冒頭、session chair より、“year, location of your first SIGUCCS conference” という icebreaker としての問かけから始まるのが印象的であった。発表は、予め作成したビデオを、session chair が画面共有で再生する、という方法で行われた。発表を聞いている途中で、Zoom の chat で presenter と直接 Q&A ができるのは、素晴らしいと感じた。

*10 SIGUCCS 2020 Conference - Site Visit - ACM SIGUCCS
<https://siguccs.org/wp/siguccs-2020-conference-site-visit>

2.1.1 Supporting the Rapid Adaptation to Remote Teaching Modality: Software and Hardware Edition

University Colorado Boulder の Dan Herrick による発表では、2020 年秋学期にむけて、教員向けにアプリ設定済みのパソコンを数百台用意して配布するプロジェクトが紹介された [4]。このプロジェクトでは、様々な要望に対して、金銭的な問題もある中で、DELL のノート PC に限定する判断をくださったことでなんとか進むことができた、という苦労話であった。また、これは、2020 年春学期には統一的な動きができずに、各教員がそれぞれのその場しのぎで大変だった反省に寄るものだ、と回顧している。

インストールアプリの話では、A 社の話が出てきた瞬間、“a mess on our campus”, “Lol!”, “seems to hate their customers”, “+1”, “everyone’s biggest headache on our campus”, “Here on A***e costs” と、いずこも悩みの種であることが伺えた。

2.1.2 Low-Cost, Scalable Technology for Hybrid Learning

California State University Northridge の Allan Chen による発表では、350 以上の教室に、2020 年秋から HyFlex モデルでの講義ができるように能力を拡張するプロジェクトが紹介された [5]。プロジェクトは、オールオンライン化を決断した 2020 年 4 月からスタートし、ワイヤレスヘッドセットの準備をふくむ、大規模な改修を行ったとのことであった。教室のマイクシステムとの連携は諦めて、教員が反復するようなやり方をしていたという報告があり、物量であってもいかんともしい部分があったのだな、と感じた。CSUN は、Zoom の契約をしたようですが、E2E encryption に絡む問題で信用を無くしているというコメントがあったのが印象深い。

2.1.3 I’ll See You Online

Lewis & Clark College の Miranda Carney-Morris による発表では、対面式から、一部の遠隔学習のサポートをしようとしていたところから、フルオンラインに方針が切り替わった為に緊急移行支援に関する取組が紹介された [6]。ここでは、全学統一までできなかったことで、Zoom と Google Hangout Meet の両方を利用することにしたため、トレーニングプログラムの立ち上げなど、大変な支援体制についての話があった。このセッションは、予定時間ギリギリまで活発な議論が進められ、最終的には、120 participants 以上だったと記録されている。

2.2 職場のメンタルヘルスに関するパネルディスカッション

ACM SIGUCCS は、学術的な情報の交換の場としての役割の他に、大学の ICT インフラを支えたり、ユーザーサービスを行ったりしている担当者の、研修 (Staff Development)

の場としての役割や、担当者の業務上の問題を共有し、その解決を試みる場としての役割を果たしている。

誰でも個人的な悩みを抱えている。我々の多くはメンタルヘルスに関する診断を受けるが、診断を受けない部分も多く残っている。職場でメンタルヘルスに関する問題が意識されはじめているが、まだ不十分な場合もある。メンタルヘルスに関する問題ではない、と思っている場合もある。メンタルヘルスに関するより良い解決方法があると嬉しい。ICT インフラは、利用者からみると、動いているのが当たり前で、なにか障害が発生すると、それを管理運営している担当者の責任を追及したくなる。ところが、ICT インフラを管理運営している担当者の立場からみると、インフラが正常に動いていても、そのことに良い評価が与えられず、障害が発生したときに責任を追及される、とても割に合わない立場にいると感じる場合がある。日本の企業や大学の ICT 部門の担当者が、利用者の増大する要求に対応するだけでなく、セキュリティや管理運営に関する問題への対応も求められて、疲弊する担当者がいるのと同様に、アメリカの大学の、ユーザーサービス部門を含む ICT 部門担当者にかかる精神的負担も大きいようである。どの人も個人的な悩みを抱えているのに加えて、ICT インフラの担当者やユーザーサービス担当者は上のような精神的負担が加わっている。

2019 年 11 月にニューオーリンズで開催された SIGUCCS Conference 2019 において、R Kevin Chapman による Mental Health in IT workplace のセッションが行われた [7]。このセッションは、メンタルヘルスの問題を抱えている、または抱えていた 3 人の発表者と参加者によるパネルディスカッションであり、50 人近くの参加者があった。メンタルヘルスに関する支援の方策についても議論された。このような議論をもう一度行いたい、という要望があり、SIGUCCS2021 においても Chapman による "Mental Health in the Workplace: A Continuing Conversation" と題した発表が、他のセッションと同様に Zoom を使って開催された [8]。前回と同様に、メンタルヘルスの問題を体験したことがある発表者による発表が行われた。これに加えて、メンタルヘルスに関する問題に寄り添った経験のある管理者の話もあった。前回と同様に、メンタルヘルスに関する支援の方策について議論されたあと、参加者も交えて、オープンディスカッションが行われた。

2.3 スポンサーによる企業展示

SIGUCCS Conference では、企業協賛による展示コーナーが例年設置されている。展示コーナーには、高等教育機関向けの教育研究用情報システムや IT ヘルプデスク管理システムなど、参加者である IT 部門のスタッフが興味を持つ企業展示が毎年多く行われている。SIGUCCS における企業展示コーナーの特徴としては、レセプションなど

のソーシャルイベントやポスターセッションなど人が集中して集まる時間にビジビリティを高めることにより、より多くの参加者に展示を見てもらえるよう工夫がなされていることと言える。

SIGUCCS Conference 2021 では、オンラインでの開催ということもあり、例年より出展数が少なく、IDaaS の先進企業である okta 社^{*11}と演習端末のアプリケーション環境を遠隔で利用するシステムを提供する Software2 社^{*12}の 2 社の協賛となっていた。ちなみに対面開催であった SIUGCCS Conference 2019 においてはプラチナスポンサー・ゴールドスポンサー・シルバースポンサーあわせて 10 社が協賛、展示を行っていた。今年はコロナ禍ということもあり、出展社数も少なかったが、開催形態が今後変わっていく中でどのような展示コーナーが展開されるか楽しみでもある。

2.4 多彩な発表が魅力のポスターセッション

SIGUCCS Conference のポスターセッションは、例年 20 件程度、一般セッション同様、大学などの ICT インフラ、サービスサポートデスク、スタッフ人材の有効活用、SD を含む大学戦略などの多彩な内容の発表が、1 セッション内に一堂に会して行われる。今年は、コロナ禍であるからか定かではないが、7 件の発表となっていた。ポスターセッションは日本人による発表も多く、今年は全体の件数が少ないこともあり、よりそれが目立つ状況となっていた。ポスターセッションは、Zoom のブレイクアウトセッションを用いて発表者ごとにブレイクアウトルームが作られる形となっており、参加者は自由にブレイクアウトセッションを歩き回る形であった。また、例年企業展示コーナーと並行して行われており、今年についてもポスターセッションに加えて企業のブレイクアウトルームが作成されていた。今年はオンラインでの開催ではあったが、対面開催の際は午後のブレイクタイム時間帯にポスターセッションが設定されることが多く、ドリンクやお菓子、アイスクリームなどを片手に参加者がポスターを見て回るといった非常に和やかな雰囲気の中でセッションが行われる。

今年のポスターセッションは、うち 3 件がコミュニケーションアワード受賞者による発表となっており、Dungeons & Dragons をモチーフにしたセキュリティキャンペーンの報告^{*13}、IT 部門の年次報告 (印刷物) の報告^{*14}、学生が作

^{*11} Okta — Identity for the internet <https://www.okta.com>

^{*12} The #1 platform for Higher Ed to deliver software — Software2 <https://www.software2.com/>

^{*13} The Dragons & Dungeons of Cyber Security <https://siguccs.org/Conference/2021/wp-content/uploads/2021/03/The-Dragons--Dungeons-of-Cyber-Security.pdf>

^{*14} "Better Together" – The Division of IT 2019 Annual Report <https://siguccs.org/Conference/2021/wp-content/uploads/2021/03/Better-Together-The-Division-of-IT-2019-Annual-Report.pdf>

成した IT サービスポスターの報告^{*15}が行われていた。いずれも非常にクオリティの高いものが作られており、感性の高さを含め、IT 部門の積極的な取り組みを目にすることで非常に参考になる報告であった。この他の発表は、日本人による発表となっており、東京農工大学・京都工芸繊維大学がそれぞれコロナ禍における情報システム構築の取り組み^{*16}*17、大学における教育プログラムの報告^{*18}、高大連携による授業プログラムの報告^{*19}など精力的な発表が行われていた。

Zoom のブレイクアウトセッションを用いたポスターセッションは、発表を順に見て回るといったスタイルに近い動きで参加することができる。このため、ポスターセッションという特徴的なスタイルには合っていると言えるが、どうしても対面開催での人が集まっているという感覚が得にくいため、発表者としてはどうしても静かに待つ時間が長く感じてしまう印象があった。これは SIGUCCS に限らず、多くのオンラインで行われるセッション共通の悩みであり、IOT 研究会では IOT シンポジウムで同様の悩みを抱えていることから、今後さらなる取り組みを行っていきたいと感じさせられた。

2.5 Lightning Talks

IOT シンポジウムでも Works in Progress のような短い発表枠が設けられているが、SIGUCCS Conference でも Lightning Talks 枠が用意されている。SIGUCCS Conference 2021 では 1 枠 9 分、5 件の発表があり、最後に 30 分

の質疑応答枠が用意され、合計 75 分のセッションとなっていた。4 月 7 日の水曜日、開始時刻はお昼の 12 時から (EDT) で、情報センターのスタッフのお昼休みに軽く発表が行われるといった時間枠となっているのも素敵な計らいと言える。ちなみに日本時間だと深夜の 1 時から開始で、参加することが困難な時間帯とまではいかない、配慮を感じさせられるプログラム設計である。

メンタルヘルスのセッションでも登場した Kevin Chapman^{*20}による”Slacking On: Organizing 50 Student Staff Remotely”は、学生スタッフと COVID-19 の環境下でどのように協働したかについて述べられた [9]。SIGUCCS Conference 2019 でも述べられたことだが、米国の大学では学生をアルバイトスタッフとして雇用している場合がある。これは単に雇用するのではなく、情報機器の扱いに関する講義の単位を取得することがその条件となっており、一方で学生にとっては大学の近傍で得られる比較的割りの良い収入源ということで、人気のアルバイトとなっているらしい。しかしながら大学は無条件でアルバイト学生に対して支払を行うことができるわけではなく、どのような仕事をいつからいつまで行った、という監督者による証憑がなければ支払を認定することができない、というのは洋の東西を問わず同様なのである。そこで Kevin Chapman らは Slack と soft phone を利用しスタッフの行動を追跡しながら、大学で求められる要求も満足させることに成功した、という事例の紹介である。

Web サイト、特に老朽化してメンテナンスも頻繁に行われていないような CMS からのドキュメントの移行というものは、IOT 研究会にとっても耳の痛い話である。Mo Nishiyama による”Good Migrations: Finding New Home for Support Articles, Done with Minimal Resources”では、350 以上のサポート記事の文書の移行を、専任のスタッフ 1 名と学生アルバイト 1 名で、半年間で計画、スケジュール、実行した過程について述べられた [10]。この発表の中で Mo Nishiyama は特に、プロジェクトを成功させるために重要なことは、計画を立てること、同僚を信頼すること、スカンクワークスの考え方を取り入れること、そしてレジリエンスを保つことと述べていた。スカンクワークスとは、少数精鋭のメンバーを組織のルールから守って、集中して独創的な仕事を行わせる環境のことを指す。

Lightening Talks セッションで最も盛り上がったであろう発表が、Kevin Tschopik による”Board Games As Relationship Building Tools”だと思われる [11]。Board Games は、そのままボードゲームの意味である。ボードゲームというと 80 年代の遊戯物というイメージを持たれる方がおられると思うが、現代でも隆盛しており、未だに爆発的な人気を誇っている (ボードゲームマニアの諸氏にとって

^{*15} 2020 Computer Lab Signage Campaign
<https://siguccs.org/Conference/2021/wp-content/uploads/2021/03/2020-Computer-Lab-Signage-Campaign.pdf>

^{*16} Preparation for Remote Activities in the University using Cisco WebEx Education Offer
<https://siguccs.org/Conference/2021/wp-content/uploads/2021/03/Preparation-for-Remote-Activities-in-the-University-using-Cisco-WebEx-Education-Offer.pdf>

^{*17} Introduction of the basic human resource development program for Freshman and the practical professional development program for current students at Tokyo University of Agriculture and Technology
<https://siguccs.org/Conference/2021/wp-content/uploads/2021/03/Introduction-of-the-basic-HR-development-program-for-Freshman-and-the-practical-professional-development-program-for-current-students-at-Tokyo-University-of-Agriculture-and-Technology.pdf>

^{*18} Practice report of high school and university cooperation class using high-speed network
<https://siguccs.org/Conference/2021/wp-content/uploads/2021/03/Practice-report-of-high-school-and-university-cooperation-class-using-high-speed-network.pdf>

^{*19} Design and Implementation of the Cisco Webex System based on self-service sign-up using G Suite for rapid deployment
<https://siguccs.org/Conference/2021/wp-content/uploads/2021/03/Design-and-Implementation-of-the-Cisco-Webex-System-based-on-self-service-sign-up-using-G-Suite-for-rapid-deployment.pdf>

^{*20} 彼は SIGUCCS Conference 2021 では 3 セッションで登壇している。

は当たり前のことかもしれないが)。毎年多くのゲームが発売され、その規模やルールの複雑さは変化を続けている。Kevin Tschopik はボードゲームが、人間関係を構築するための貴重なツールになると考えた。彼は中堅企業の IT コンサルタントでもあり、昼食時にゲームをしたいというリクエストがあれば、誰とでもゲームをするというポリシーを持っている。彼のオフィスには、15分から45分のできるゲームを厳選して置いてあり、これらのゲームのおかげで、教授や大学院生と一緒にゲームをしたり、おしゃべりをしたりする機会が増えたという。彼は前述の通り IT コンサルタントを生業としており、現所属に転職したばかりらしいのだが、このポリシーに基づく時間は人の名前と責任を確認するのに役立つとともに、友人関係を築くこともでき、一日の中での心地よい息抜きの時間にもなっているという。

Kevin Tschopik はその後の Social Session にも参加していて、彼のそのボードゲームのコレクションを見せてくれたのだが、「厳選して置いてある」と述べられていたボードゲームは膨大な量を誇っており、厳選の定義について問い質したくなったことは言うまでもない。

2.6 Social event

SIGUCCS Conference の Social event は非常に活発である。例年、Welcome Reception に始まり、早朝に会場周辺を散歩する Morning Activity、Award Reception、Happy Hour、夜にゲームや会話を行う Hospitality Suite など非常に多くの機会が設けられている。2019年の Conference では、Mercedes-Benz Superdome 見学ツアーなども設定され、ロッカールームなどの内部施設やグラウンドに至るまで見ることができた(図3)。今年の Conference では、Social event はなんと7日間にもわたって開催された。SIGUCCS Conference 2021 のイベントデイが合計18日間であったから、いかに ACM SIGUCCS が Social event を重視しているかがよく分かる。完全オンライン開催となった SIGUCCS Conference 2021 では Social event は gather.town^{*21}を用いて行われた。

3. まとめ

SIGUCCS Conference への投稿は、研究業績としてのカウントを目的とするならばそれほど魅力的なものとは言えない。Conference Ranks^{*22}で検索すれば SIGUCCS Conference は C ランクである。しかし、インパクトファクターを気にして論文を投稿し続ける土俵に我々は自らの意思で登ったのか、あるいは登らされたのか、他人が作っ



図3 SIGUCCS Conference 2019 における Mercedes-Benz Superdome 見学ツアーの様子

たこのゲームをプレイしているのか、プレイさせられているのかについては一考の余地があるだろう。

もちろん、ACM SIGUCCS が唯一解というわけではない。良くも悪くも馴れ合いがあるのは確かだろう。発表に対して科学的な考察が行われにくいことには一定の距離を置くことが適切かもしれないし、そうではないかもしれない。著者には分からないことである。ただ、文化的な土壌の違いというものは ACM SIGUCCS に限らず様々なコミュニティにおいて存在することで、協働にメリットがあれば協働する価値があり、なければ惰性で協働を持続させなくても構わないだろう。

我々がより彼らの言語を障壁なく使えるようになり、闊達な議論ができるようになればと思う次第である。日本人参加者が日本人だけで固まってしまうのは、日本人に限らず非英語圏においてしばしば見受けられる悪癖とも言えるだろうが、やはり言語の壁を越えて交流をしたいものだと、著者の1人は考える次第である。そのためにも、より多くの参加者が ACM SIGUCCS に参加し、そのうちの何人かが ACM SIGUCCS コミュニティとより活発な交流を行うことで、英語での交流を不得意に感じる人も、英語で交流したいという動機づけが生まれてくれれば、と思う次第である。そのため ACM SIGUCCS Tokyo Chapter でもある。

SIGUCCS Conference 2022 は 2022 年 3 月 27 日から 30 日の日程で、今度こそサンディエゴで開催される予定である^{*23}。Call for Proposal は既にオープンしている。筆者らは、IPSI SIGIOT の紹介と、ACM SIGUCCS Tokyo Chapter についての発表を行う予定である。これを読んでいる皆様も、ぜひ Proposal をご検討いただければ、そしてお互いに採択された暁にはコロナ後のサンディエゴで交流ができれば幸いである。

第12回インターネットと運用技術シンポジウム(IOTS2019)のテーマは「運用管理する人」も報われるシステムの構築を考える」というものであったが、知恵を

^{*21} Gather <https://gather.town>

^{*22} Conference Ranks <http://www.conferenceranks.com> ERA, Qualisis, MSAR での評価結果を横断的に評価してくれる web サービスである。

^{*23} ACM SIGUCCS - 2022 Conference <https://siguccs.org/Conference/2022/>

持ち寄り、それをお互いに称え合うことができる場所として、ACM SIGUCCS は、そして SIGUCCS Conference は非常に良い場所であると確信している。皆さん「ACM SIGUCCS に参加してみませんか?」

謝辞

ACM SIGUCCS の現 Chair である University of Rochester の Lisa Brown、Vice Chair である Macalester College の Eric Handler、SIGUCCS Conference 2019 の Chair であった元 West Virginia University の Bob Haring-Smith には様々な機会で大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

参考文献

- [1] Yamanoue, T., Fujimura, N., Masuda, H. and Nakamura, M.: An Introduction to the Special Interest Group on Internet and Operation Technology (SIG-IOT) of Information Processing Society of Japan, *Proceedings of the 40th Annual ACM SIGUCCS Conference on User Services*, SIGUCCS '12, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 149–152 (online), DOI: 10.1145/2382456.2382492 (2012).
- [2] Brown, L. and Felthousen, M.: Making the SIGUCCS Experience Last Year-Long; How a Regional Conference Became a Local Chapter, *Proceedings of the 40th Annual ACM SIGUCCS Conference on User Services*, SIGUCCS '12, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 101–104 (online), DOI: 10.1145/2382456.2382480 (2012).
- [3] Brown, L. and Felthousen, M.: Make the SIGUCCS Experience Last: Become a Local Chapter, *Proceedings of the 41st Annual ACM SIGUCCS Conference on User Services*, SIGUCCS '13, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 115–118 (online), DOI: 10.1145/2504776.2504820 (2013).
- [4] Herrick, D. R.: Supporting the Rapid Adaptation to Remote Teaching Modality: Software and Hardware Edition, *ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '21, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 10 (online), DOI: 10.1145/3419944.3441175 (2021).
- [5] B. Chen, A.: Mission COVID: Low-Cost, Scalable Technology for Hybrid Learning, *ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '21, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 9 (online), DOI: 10.1145/3419944.3441220 (2021).
- [6] Carney-Morris, M.: I' Ll See You Online, *ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '21, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 4–8 (online), DOI: 10.1145/3419944.3441173 (2021).
- [7] Kevin Chapman, R.: Mental Health in the IT Workplace, *Proceedings of the 2019 ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '19, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 209 (online), DOI: 10.1145/3347709.3347828 (2019).
- [8] Kevin Chapman, R., Cohen, M. and Lynn Nolen, B.: Mental Health in the Workplace: A Continuing Conversation, *ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '21, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 36 (online), DOI: 10.1145/3419944.3440728 (2021).
- [9] Kevin Chapman, R.: Slacking On: Organizing 50 Student Staff Remotely, *ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '21, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 74 (online), DOI: 10.1145/3419944.3441225 (2021).
- [10] Nishiyama, M.: Good Migrations: Finding New Home for Support Articles, Done with Minimum Resources, *ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '21, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 71 (online), DOI: 10.1145/3419944.3441221 (2021).
- [11] Tschopik, K.: Board Games As Relationship Building Tools, *ACM SIGUCCS Annual Conference*, SIGUCCS '21, New York, NY, USA, Association for Computing Machinery, p. 73 (online), DOI: 10.1145/3419944.3441224 (2021).